

きち じ

⑨吉次地区 (熊本市北区)

- ◆農家戸数 34戸
- ◆農地面積 45ha (畑: 樹園地)



未来へつなげ「宝の山」 はばたけ！ 吉次 ～細やかな基盤整備による高品質みかん生産～

[中山間農業ビジョンの概要]

集落の課題(現状)

- 豪雨による土壌流亡、畝の崩壊
- 高齢化に伴う離農者の増加
- 高品質化と後継者育成の必要
- 温州みかんの極早生品種への偏り
- 鳥獣被害の増大

目指す将来像

- 高品質果実の安定生産による農業所得の向上
- 農業後継者が安心して農業を継げる足腰の強い産地の確立

具体的方策

- 高品質果実の安定生産
 - ・基盤整備(土壌改良、赤土・畝補修)
 - ・高品質果実への取り組み(品種改植、その他)
- 担い手対策(担い手への農地集積)
- 鳥獣被害対策(猟友会と連携した講習会)

[ビジョン策定のプロセス]

ビジョン策定以前

◆昭和42年、パイロット事業により、山林から樹園地へと開墾。
◆この時、「吉次パイロット組合」が設立され、以後、施設の維持管理、各種研修活動などを行う。

◆平成10年、県営畑地帯総合整備事業スタート。
◆平成19年、高畝造成・農道整備・パイプライン整備等。
◆これらの取り組みにより、作業効率の高い樹園地区が形成された。

中山間農業モデル地区支援事業

平成29年度、中山間農業モデル地区の設定を受ける。

- ◆吉次パイロット組合が実施母体となる。下記のような理由により、妥当性が高かったからである。
- ◆組合は地区において長い活動経験を持っていた。
- ◆また、組合員34名のうち18名のほ場が当事業に該当していた。

実際の取り組みにあたっては、直接的に関係する18名だけでなく、全組合員が参加・協力している。

農業ビジョンの策定

平成29年11月、ビジョン検討スタート。ビジョン策定は下記のような流れで実施された。

- ◆パイロット組合によって地区の課題をまとめる。
- ◆組合から地区全体に対する説明会。
- ◆当事業に該当しない農家を含めた全体で意見交換。
- ◆提出された意見を組合役員により煮詰める。

これらと並行して現地視察(ほ場など)やスケジュール検討を行い、平成30年2月、ビジョンを決定。

ビジョンの合意形成

ビジョン策定にあたって、「事業に該当する農家と該当しない農家との軋轢」が懸念されたが、結果としてスムーズに合意形成がなされた。その要因は下記の2つに代表される。

- ◆「地区の一部が荒れたら全体が荒れる。当事業は地区全体の課題である」という意識を高めていった。
- ◆パイロット組合を中心とする地区のまとめりは50年以上に及ぶ歴史があった。

⑨吉次地区(熊本市北区)

未来へつなげ「宝の山」 はばたけ！ 吉次 ～細やかな基盤整備による高品質みかん生産～

[具体的な取り組み 計画と取組現状]

成果目標(令和3年度):高単価生産に向けた栽培技術を20ha以上導入する

1. 高品質果実の安定生産

◆基盤整備の実施

土壌改良として、たい肥・石灰系資材の投入及び、赤土・畝補修等を実施する。

◆土壌改良は平成30年度に実施完了。

但し、今後も小規模補修は必要で、他の交付金を活用し整備を進める予定。

◆高品質果実に向けた取組み

早生、普通を中心とした優良果樹品種への改植、高畝栽培、シートマルチ栽培、植物成長調節剤(フィガロン剤等)の活用等に取り組み、高品質果実の安定的な生産体制を構築する。

◆これまでに高畝栽培面積22haを更新完了。

◆極早生から早生・普通品種への改植を、令和2年1月までに約3haを実施。

◆シートマルチは、現在15戸(地区の露地栽培面積の7割)が導入。

◆フィガロンは現在、全戸実施中。高額で、販売価格への反映が課題。

2. 担い手対策

◆担い手への農地集積

認定農業者等、担い手への農地集積を促進するため、徹底した話し合いによる土地利用調整を図る。

◆平成10年の担い手育成事業で若手育成に取り組み、青年部もできた。30歳前後で13人。全員、農業後継者である。

◆当事業で、電動剪定バサミを2台購入。女性や高齢者も作業しやすくなる。予約制で貸し出しを行い、組合全体で利用している。

3. 鳥獣被害対策

◆鳥獣被害軽減に向けて、地域の猟友会と連携した講習会を実施する。

◆電気柵等を設け、イノシシなどの侵入を防止している。

◆現在、若手の農家ハンターが2人。鳥獣被害を防ぐ試みを実施中。

◆地元猟友会と連携しているが、イノシシの学習能力が高く、苦闘中。

[成果と今後の展開方向]

1. 全体的な成果

◆高単価生産に向けた栽培技術20ha以上を導入！

平成30年に実施、目標値は達成した。

また、電動剪定バサミを2台購入。収穫後の枝切り作業に活用。さらなる作業負担軽減を目指す。



電動剪定バサミ

2. 今後の展開方向

◆天候に左右されにくく、他のみかんよりも糖度が1度でも高いものを作る環境の整備。

◆植物成長調整剤フィガロンの適切な使用と販売価格への反映。

◆3年ほどで劣化・効果減少するシートマルチの継続的な更新。

◆行政と連携した鳥獣被害対策の推進。



シートマルチによる栽培